

# わくわく国際交流

深川国際交流協会 広報誌 Vol. 24 2012. 3

<http://www.fukakoku.sakura.ne.jp/>



↑ 深川国際交流協会総会



↑ インターナショナルデー 「Musical Chairs」



↑ 青年の家ホームステイ体験事業!!  
(ファンタジーワールド)



↑ 高校生の交換留学生制度事業  
(カナダからの留学生へ日本語教室開催)



## 青少年交流と異文化理解

深川国際交流協会 会長 小瀧 聰

ホームステイは異文化理解を深める絶好の機会だと思います。わずか2週間足らずのことですが、そこでの濃密な時間は、次なる飛躍につながる貴重な体験となって結実し大輪の花を咲かせます。ホームステイを体験した青少年が大きく成長してゆくことは、私達協会員の喜びにつながります。

この1年間、深川国際交流協会は青少年のカナダ訪問に際して、ホームステイ体験に関わって発生した各種問題の解決に向けて精力的に取り組んできました。毎年派遣している5人の中高生にとり、姉妹都市アポツフォードでのホームステイは、このプログラムの中核となる部分で、大変重要な位置を占めていることは言うまでもありません。

しかしながら、近年、異文化交流の重要性を認識せず、安易にホストファミリーを引き受け、深川の子どもたちに「2週間の部屋と食事を提供するだけ」という家族が散見されるようになってきました。残念なことです。私達はこのことに少なからず危惧の念を抱いていました。

私達は現地の教育委員会、姉妹都市委員会、日加友好協会、市役所の人達と連携をとりながら、ホームステイ体験の意義を双方が認識し、派遣された中高生が有意義な異文化体験をできる仕組みを構築する手立てを議論してきました。

何度もメールでのやり取りと深川市経済交流団派遣時の忙しい時間の合間を縫って、夜遅くまで意見交換を行いました。そして、これからもBC州34地区教育委員会とのパイプを通しての意思疎通を図りながら関係機関の支援と現地在住日本人の協力連携を密にしながら充実したホームステイ体験ができる環境を整えようということになりました。

そしてそのことを確認するために当協会の役員である上垣由紀子さん、轡田淑子さん、横田育子さんが現地に出向き最終的な詰めを行いました。双方が本音で意見を交わし、相互理解を深める良い機会となりました。

この1年は何から何まで大変な年であったと思います。東日本大震災にはじまり、数々の自然災害がわが国を襲い、国際交流という面からも大変な年でした。しかし、そうした困難な環境の中でも、いつもの通り粛々と交流事業をこなせたことに安堵を覚えます。

## 深川国際交流協会総会開催

4月20日(水)、プラザホテル板倉にて「深川国際交流協会総会」を開催しました。

総会では、2010年度事業報告及び決算報告、2010年度監査報告がなされ、2011年度事業計画(案)及び予算(案)が承認されました。

また、役員を選任、規約の改正が承認され、組織のさらなる活性化を図るため、大幅に役員体制が見直しされました。

2011・2012年度の深川国際交流協会の役員は、次のとおりです。



### ◆ 2011・2012年度 深川国際交流協会役員 ◆

役職	氏名	役職	氏名
顧問	芳賀昭雄	理事	藤岡順子
参与	谷口保幸	理事	淀野順子
会長	小瀧 聰	理事	横田育子
副会長	板倉明子	理事	大橋 朗
副会長	上垣由紀子	理事	宮川央子
理事	中川良平	理事	川原みゆき
理事	土門裕之	監事	深川ロータリークラブ会長
理事	轡田淑子	監事	拓殖大学北海道短期大学 地域・国際交流委員会委員長
理事	北本清貴	事務局長	渡辺 優
理事	岡 隆史		

## インターナショナルデー開催

深川国際交流協会 国際理解部会副部長 淀野 順子

6月8日（水）、プラザホテル板倉にて、国際ソロプチミスト深川と深川国際交流協会の共催による「インターナショナルデー」を開催しました。

今回はゲストにALT等4名を迎え、小中高生13名や拓殖大学北海道短期大学の招聘講師・留学生を含む約75名が参加しました。

深川国際交流協会の小瀧会長の挨拶で幕を開け、ALT（英語指導助手）による英語を交えた自己紹介の後、テーブル毎にチームの名前を決めました。ゲームの1つめは、ALTの企画「Follow the Leader（リーダーはだれだ?）」。このゲームは、参加者が輪になってリーダーと予想役を決め、リーダーの動きを参加者が真似し、予想役が「だれがリーダーか」を当てるものです。知らない人同士のチームではじめは緊張していた参加者でしたが、予想役が間違った答えをすることに笑い声が大きくなり、参加者同士の緊張がほぐれていきました。続いては「Candy Relay」。離れた場所に置かれたお皿いっぱいキャンディーを、スプーンですくい、チームごとに数の多さを競うリレーゲームでした。大きくてすくいやすいキャンディーを選ぶのか、それとも小さくて運びにくいキャンディーを選ぶのか、チームごとに作戦が異なり、盛り上がりました。

「バースデーゲーム」は、参加者同士が自己紹介し合い、相手の生まれ月を1月から12月まで集めてカードに記入するというものです。たくさんの人と自己紹介し合わなければ、生まれ月を全て集めることができないため、みんな必死に相手探しをしました。たくさんの人と自己紹介し合うことで、参加者はコミュニケーションの楽しさを感じることができたようです。「ビンゴゲーム」の後はコーヒープレイクで各々、参加者同士の交流を深めました。

コーヒープレイクの後は、拓殖大学北海道短期大学の留学生が企画した「はんかち落とし」。はんかちを落とす鬼役も、落とされる側も、各チームごとに表情による攻防戦が繰り広げられました。

最後は「ダンスタイム」。カナダ組（過去に青少年カナダ交流訪問団として参加した学生会員）がステージに上がり、参加者全員に振り付けをレクチャーした後、全員でAKBの曲に合わせてダンスをしました。

国際ソロプチミスト深川の中本会長の挨拶でお開きとなった今年度のインターナショナルデーも、参加者にとって有意義な時間になったと確信しています。

## 2011 青少年カナダ交流訪問団派遣

2011年7月27日から8月11日の行程で青少年海外派遣事業（青少年カナダ交流訪問団派遣）を実施しました。青少年カナダ交流訪問団のカナダの感想など詳細は、青少年カナダ交流訪問団報告書に掲載されていますので、そちらをご覧ください。

### ★日程・メンバー紹介★

月日	主な研修・活動内容
7.27	▪ 深川出発～バンクーバー国際空港へ
7.28	▪ 歓迎昼食会、英語の授業
7.29	▪ グランビルアイランド、ロブソンストリート、スタンレーパーク散策
7.30	▪ ホストファミリーと過ごす
7.31	▪ ホストファミリーと過ごす
8.1	▪ ホストファミリーと過ごす
8.2	▪ 英語の授業（ホワイトロック中止）
8.3	▪ 英語の授業
8.4	▪ ウォーターズライドとピクニック
8.5	▪ ヴィクトリア
8.6	▪ ホストファミリーと過ごす
8.7	▪ ホストファミリーと過ごす
8.8	▪ 英語の授業、フレーザーバレー日本語学校訪問
8.9	▪ 英語の授業、送別会
8.10	▪ バンクーバー国際空港出発
8.11	▪ 帰国～深川へ



【写真の右から】

川田 晴菜（深川中学校2年生）  
西 夏菜絵（納内中学校3年生）リーダー  
樋口 留音（深川中学校3年生）サブリーダー  
伊藤 穂香（一已中学校1年生）  
荒井 愛永（納内中学校2年生）  
北本 清貴（団長・引率者）

## アボツフォード市派遣

深川国際交流協会では、アボツフォード市姉妹都市委員会等の団体との交流促進及び青少年カナダ交流訪問団のホームステイ先の改善を目的に、10月7日～10月12日の期間、協会単独で初めてアボツフォード市へ3人を派遣しました。

3人の訪問団は、アボツフォード市での滞在期間、姉妹都市委員会が用意してくれた家にそれぞれホームステイ。青少年カナダ交流訪問団の受入をいただいているBC州34地区教育委員会の担当者などと、青少年カナダ交流訪問団のホームステイ先の改善について協議するとともに、教育委員や姉妹都市委員会のメンバーなどとも意見交換するなど、精力的に活動し、交流を図ってきたところです。

### 【ホームステイ改善の協議】

訪問団からは、青少年カナダ交流訪問団の受け入れへ感謝をした上で、ホームステイ先で子供（団員）が1人になることがあることから、遠くに出かけなくても、ホームステイ先の家族とできるだけ一緒に過ごすことが望ましい旨を申し上げ、改善を求めた。

アボツフォード市の受入側からは、ホームステイ先はさまざま細かくチェックし選定しているが、今後は今まで以上に姉妹都市にふさわしいホームステイ先を選択するよう努めたいという話があり、友好関係の中で協議がまとまりました。

派遣者3人からの報告は次のとおりですので、ご覧ください。

●派遣者 上垣 由紀子 ・ 轡田 淑子 ・ 横田 育子

### ●スケジュール

	月日	行程
1	10/7 (金)	深川市発 (8:17) ～新千歳 JR 新千歳 (13:00) ～成田 (14:40) JAL 成田 (17:40) ～バンクーバー (10:45) JAL (ホームステイ)
2	10/8 (土)	アボツフォード市滞在 (ホームステイ)
3	10/9 (日)	アボツフォード市滞在 (ホームステイ)
4	10/10 (月)	アボツフォード市滞在 夕方 バンクーバーへ (ホテル)
5	10/11 (火)	バンクーバー (12:05) ～成田 (14:30) JAL 国際日付変更線通過 (機中泊)
6	10/12 (水)	成田 (18:40) ～新千歳 (20:25) JAL 新千歳～深川市着 23:02 JAL

(時間はおおむねです)



## カナダ訪問報告

上垣 由紀子 ・ 轡田 淑子 ・ 横田 育子

国際交流協会は、次代を担う子供達が国際感覚を養い世界に開かれた視野をもつ人に成長してほしいという願いと姉妹都市アボツフォード市との交流を目的に、1997年から青少年カナダ交流訪問団を派遣してきました。中高生が夏休みにホームステイをしながら研修する青少年カナダ交流訪問団は、協会にとって事前研修から報告会に至るまで半年にわたる大きな事業であり、携わる私達会員にとっても子ども達の成長を感じとれるやりがいのある事業でもあります。

さて、アボツフォード市や州の教育委員会、ホームステイ家族等多くの方々の協力があって成り立つこの事業も、第一回目の派遣から15年の年月が経過しました。さらなる交流の促進と改善点等を確認する事を目的に、協会独自に初めて現地へ会員を派遣することになりました。小瀧会長のカナダ側との事前交渉を経ての派遣ということですが、大切なミッションであり、理事会での私達への依頼決定は重いものを感じられました。

緊張の面持ちでバンクーバーの空港に降り立ったのは10月7日の金曜日。おりしもカナダでは10月の第2月曜日が感謝祭で、学校も職場も土、日、月と3日間の休暇に入るところでした。笑顔で迎えてくれたエアードさんの車で大急ぎで日本語の授業を見学すべくロバートベイツマン中高等学校へ向いました。教室では、私達より早口で流暢な日本語を話すロドニー先生が、私達3人の自己紹介も巻き込んで次から次へと生徒に質問を投げかけます。学生達は私服で大人びて見えたが、授業終



了後には学校を案内してくれて、素直で優しい子供達でした。

その後、いよいよ会議室で話し合いです。メンバーは、州 34 地区の教育委員会で青少年カナダ交流訪問団を担当しているエリザベスさん、訪問団員が研修でお世話になっているサンドラ先生、リチャード先生の奥様えつ子さん、エアードさんと私達です。



早速、ホームステイの受け入れ体制の改善点等（①団員を1人残して外出することなく、家族とともに普段どおりの生活を体験させてほしい。特別に観光へ行くということだけでなく、近くの公園や近所で遊ぶ、またスーパーへ行く、晩ごはんを作るなど、一緒に過ごしてほしい。②日加友好協会のメンバーを団員のアドバイザーとして認めてほしい。③カナダ側から青少年の訪問団が来ることになれば歓迎します）をざっくばらんに意見交換し理解いただくとともに、これからの更なる交流の促進を確認し合いました。話し合いは、

和やかに進めることができ、有意義なものでした。エリザベスさんは韓国系カナダ人で明るい素直な方でしたし、サンドラ先生は二人の子の持つ母性溢れる方でした。今まで書類上で何度も目にしてきた Elizabeth という名前が、直接お会いしてリアリティのある温かみのあるものになりました。協会とカナダ側の関係が目に見えるものとして近づく足がかりになればと願いロバートベイツマンを後にしました。

その後、私達は各々のホームステイ先へ。翌日からは、教育委員の方とマーケット視察、市長夫人との会食と深川市ALTアシュリーさんのご両親と感動の出会い。エアードさん宅での感謝祭。日本語教室訪問での子ども達との触れ合いとリチャードさん家族との交流。

最終日は、教育委員のプリートさん宅でインド料理を一部実際に体験したり、日本の着物を着せて喜ばれ、又私達もインドの民族衣装を着用し、お互いの文化交流が実現した一時でした。急遽シーク教の寺院見学となり普段入室できない場所まで案内して頂き、教徒の方々と昼食を共にする貴重な機会にも恵まれました。

エアードさんご夫婦には、最初から最後まで温かいおもてなしをいただき、多忙な三日間が充実した意義深い三日間になったのだと感じています。

最後に、今後も続いていく青少年カナダ交流訪問団の一人一人が「未来の世界を支える人」となる第一歩となる事を心より願っています。

## “MANABI” sh in ゆーすくる Part2 ～少し早いクリスマスを楽しもう～

深川国際交流協会 海外派遣受入交流部会 横田 育子

### ★プログラム★

#### ≪12月17日≫

- 13:30 オープニング
- 14:00 アイスブレイク (オリエンテーション)
- 15:00 ファンタジーワールド  
(お菓子の家づくり、クリスマスボールづくり)
- 17:15 夕食
- 18:00 クリスマスDEナイト  
(クリスマスキャロルを歌う、クリスマスゲーム、クリスマスムービー)
- 20:30 入浴・自由時間
- 21:30 就寝準備
- 22:00 消灯

#### ≪12月18日≫

- 6:30 起床
- 7:00 朝のつどい (ラジオ体操 英語バージョン)
- 7:30 朝食・宿泊室の清掃・整頓
- 8:30 部屋の点検
- 9:00 もちつき the キッチン
- 11:20 アボツフォード市の紹介
- 11:30 フィナーレ
- 12:00 終了・解散  
(時間はおおむねです)

今年度で3度目となる「青年の家でホームステイ」の事業は、今回は青年の家との共催により「“MANABI” sh in ゆーすくる Part2～少し早いクリスマスを楽しもう～」という形で12月17日(土)・18日(日)に行なわれました。今回は深川の小・中学生のほか市外の小中学生にも募集をかけ、定員30名のところを40名以上の応募がありました。残念ながら、募集者全員に参加してもらうことはできませんでしたが、このようにたくさんの応募がきたことを嬉しく思います。

当日は、ゲームを混じえながら英語で自己紹介をしていくアイスブレイクに始まり、ジンジャーブレッドクッキーを使ったお菓子の家づくり、クリスマスオーナメントのペイント&クリスマスカードづくり、体育館でゲーム、ココアとポップコーンを楽しみながらの映画鑑賞、もちつきなどたくさんのアクティビティをしました。

青年の家の方の進行で、今回参加してくれたALT、アシュリーさん(深川)、ケリーさん(雨竜)、

コートニーさん（秩父別）の3名が工夫を凝らした内容でイベントを盛り上げてくれました。

子ども達は英語での説明に耳を傾けながら、ものづくりをしている時は熱中して、またゲームの時は大いにはしゃいでいました。深川市の姉妹都市であるアボツフォード市出身のアシュリーさんによるアボツフォード市の紹介や、彼女の実家でのクリスマスパーティーの様子を写真を見ながら聞きました。

2日目の午前中にはもちつきをして、出来たてのおもちをみんなで食べました。これはALTの方も、もしかすると子ども達にとってもなかなか機会が少ない貴重な体験になったかもしれません。

今回の1泊2日で、子ども達は生の英語に触れながら外国の文化や遊びを体験することによって、普段日本で過ごすクリスマスとはひと味違った思い出深い日になったのではないかと思います。

『クリスマス=家族』とアシュリーさんたちが教えてくれました。クリスマスは、日本ではプレゼントを交換したりケーキを食べたりするといった一種のイベントの様なものとされがちですが、本来は家族や友達など大切な人たちと過ごすとても大切な温かい日なんだとわかりました。外国の方と接することでその国の文化の意味を知り、視野が広がることは素敵なことだと今回の事業を通して改めて感じました。



## 高校生の交換留学生制度について

平成10年9月14日に姉妹都市提携した、カナダ・アボツフォード市と深川市では、平成14年度から高校生の交換留学を実施しています。7回目の実施となる今回は、9月11日～10月29日までの7週間、アボツフォード市の高校生1人を受け入れ、10月29日～12月20日までの7週間、深川市から2人の高校生を派遣いたしました。



小林さん、原くんに留学の体験を書いていたので、ご覧ください。

### ●留学生

氏名	学 校	学年
原 宗一郎	北海道立深川西高等学校	1年
小林 夏子	北海道立深川西高等学校	1年
ジェニー・チャン	パート・バイツァン・カザリ・スクール	1年

### ●留学先 Robert Bateman secondary

HP:<http://www.robertbatemansecondary.com/>

### ●スケジュール

	月日	行程
出 発	10月29日(土) 日本出発	深川市発 9:30 *出国手続 新千歳～仁川(ソウル) 13:45～15:25 KE
		仁川～バクバ - 18:50～12:10 KE *入国手続 ホームステイ先へ
帰 国	12月19日(月) カナダ出発	*出国手続 バクバ-発 13:00 KE 国際日付変更線通過(機中泊)
		12月20日(火) 日本帰国

(時間はおおむねです) ※KE⇒大韓航空

## カナダでの7週間

小林 夏子 (深川西高等学校1年)

私は10月29日から12月20日までの約7週間、深川市の姉妹都市であるアボツフォード市に交換留学生としてホームステイをしました。最初に深川に来ていたジェニーのお家でホームステイだったので、行く前も特に不安もなく、とても楽しみでした。私は Robert Bateman という学校に通いました。学校初日はハロウィンの日で生徒や先生が皆仮装をしていて、とても驚きました。ジェニーのおかげもあり、私はすぐに友達もできたし学校に慣れることもできました。Robert Bateman の生徒や先生は皆明るくて、フレンドリーで、優しく、と



でも个性的で、すごく素敵だなと思いました。私は前年も2週間のプログラムでアボッツフォードに行かせていただいたのですが、今回はこのようにカナダの学生と一緒に授業を受けることはなかったので、初めての経験でした。学校のシステムも日本とは全然違ったので、とても新鮮で毎日が充実していました。私がとっていた授業は ESL、家庭科、社会、日本語の授業。私が一番楽しかったのは特に ESL の授業です。ESL は、英語を母国語としない人たちのクラスで、主に韓国人やスペイン系、私たちの他に、日本人も一人いました。ESL のクラスでは映画やアニメを見たり、本を読んでレポートを作成したりしました。初めの頃は先生の言っていることや問題が全く理解できなくて、テストもほとんど白紙でした。しかし日を重ねるにつれ



だんだん理解できるようになり、テストでも高得点がとれるようになって、自分で手応えを感じるできるようになりとても嬉しかったです。また、休日はホストファミリーとおでかけしたり、友達とたくさん遊びました。カナダは本当にいろんな人種の人たちがいて、いろいろな人と触れ合えて本当に勉強になりました。私はこの経験を通して、国際交流って素敵だな、と思いました。そしてもっと英語に触れたい、話せるようになりたいと思いました。なのでこれからも続くこの交換留学制度が楽しみです、英語を頑張りたいと思います。国際交流協会の皆様、企画課の皆様、学校の先生、家族、この計画に携わった全ての方々に本当に感謝しています。ありがとうございました。

## これから

原 宗一郎（深川西高等学校1年）

私は 10 月 29 日から 12 月 19 日まで交換留学生としてカナダのアボッツフォード市に行ってきました。カナダでの生活は到底作文に収まりきるものではありませんが、一生懸命まとめ上げたので何とか形になりました。是非読んでください。思い返せば私は海外渡航どころか飛行機に乗ったこともありませんでした。そのせいか、カナダに降り立ったときもここは本当にカナダなのか？と疑ってみたりもしました。異国の地で7週間過ごすことが不安だったのかもかもしれません。バンクーバーからは車で移動したのですが、車が右側走行だったり看板の文字が英語だったり、カナダに来たという事実



を認めざるを得ませんでした。ホームステイした家はザック・カンフェスさん宅で、余りの広さに驚きました。家にいる時間は余り長くなく、一週間に二回くらいのペースで遊びに出かけたので留学中に風邪をひきました。到着の二日後から学校に行ったのですが、その日はハロウィンということで校内は派手に飾り付けられ、先生も仮装していました。もうびっくりです。授業の雰囲気も日本とは全く違い、例えば授業中の



飲食はオッケーだったり、授業中におやつが配られたりとかかなり自由なものでした。最初の一、二週間は早く帰国したかったのですが、いざ帰国となるとホストファミリーの事や学校みんなのこと、喪失感が走馬燈のように頭をよぎって泣きそうになりました。泣かないように我慢していたのですが、飛行機が浮いた瞬間泣いちゃいました。カナダはいい所でした。

この交換留学で得たものはかなり多く大きく、中でも一番実感しているのは人見知りが軽減したことです。これから社会に出て行くことのために克服出来てよかったです。英語も今までに習ったものとは違う、本場の生きている英語を習うことが出来、これからの英語学習の基礎を作れました。こういった経験とは別に入国審査や欧米の常識、マナーなどの経験、更にはカナダに滞在した、という経験が今これからの私の人生に大きな可能性を生み出すことでしょう。でも、そんな理屈抜きでカナダに行けてよかったです。

## やさしい中国語講座 開講

講師：馬 欣（ま きん）先生  
中国黒龍江農業職業技術学院教員  
拓殖大学北海道短期大学客員講師  
講座期間：9月14日～12月7日の毎週水曜日  
全12回開催（祝日11月23日は除く）

受講者から感想を書いていただいています。  
次のとおりですので、ご覧ください。



### ～ やさしい中国語講座を受講して 山西 功 ～

9月14日から12月7日まで、毎週水曜日午後7時から8時までの1時間、12回の講座に学びました。拓大北海道短期大学には多くの中国からの留学生が在学し、街中でも中国の人たちとの出会いが多くなっていることから、日常会話を少しでも学びたいと思い、家内や近隣の仲間を誘い受講しました。

講師の馬欣先生は若くて美人、札幌の大学に4年間学ばただけあって、流暢な日本語を話し非常に期待の中での授業となりました。

私は外国語と言えばせいぜい和製英語の単語程度で、期待と不安半ばでしたが、かつて短期でしたが訪中の経験もあり、漢字に対して親近感も手伝って、なんとかなるだろうとの楽観的な気持ちで臨みました。しかし簡体文字とピンイン（ローマ字表記の発音）の説明を受けて発音も母音が単母音、複合母音、鼻母音、そり舌母音からなり、声調により意味が大きく変わるとの説明を受け、頭の中が真っ白になりました。

日本語の常識をもっては中国語の理解は無理との思いを強くさせられたのであります。

しかし、回数を追って日常の挨拶から数字、旅行関連用語、空港やトイレ、トラブル対策など各種の質問方法などを馬欣先生の巧みな授業展開に引き込まれ、1時間はあっという間に過ぎ、特に今回は中国語の表記や発声、基礎的な文法などを中心に講義をいただきました。密度の高い授業内容でしたが、なかで中国各地の料理の特徴、季節の催しなど日本の生活習慣にも通じる内容の紹介をいただき、終わってみると中国は近くて遠い国との印象を大きく変えた12回の講義であったと感じております。

中国は我が国にとって主食である米の原産国であり、文字や言語さらには政治・経済・文化のふるさとでもあります4千年の歴史をもつ中国に対し今回の受講を機に、さらなる知識を得たいと考える次第です。

馬欣先生、そして今回の機会を与えて頂いた関係する皆様に、心からお礼を申し上げ受講の感想に替えさせていただきます。

### ～ 2011年度 やさしい中国語講座を受講して 牛島 弘善～

馬欣老師、漢語普通話のご指導ありがとうございました。

9月14日から始まった毎水曜日の授業はとても楽しくて、12回の授業があっという間に終わってしまった気持ちです。普通話の音声と意味と文字、そして文法をよく準備された楽しい方法で、わかりやすく説明してくださいました。

とても美しい日本語での説明は、私たちの理解を大きく助けてくれました。

深川にいて本格的な漢語の指導を受けられるのは、とても幸せなことです。

このような機会を与えていただけるのも、拓大のおかげです。そして、私たちの授業のために、いろいろと心配りをいただく事務局の方々に感謝しています。

この中国語講座は、私に、世界を眺める新しい窓を与えてくれます。初歩的な知識しかない今は、それは小さな窓です。でも、その窓を、少しずつでよいから大きくしていこうという勇気をも、この講座はあたえてくれます。中国語学習の意欲を意志にまで高めて、今後も受講を継続したいです。

馬欣老師、この講座の開設に注力いただいている拓大の皆さん、あらためて  
太感謝了！！！！



## 青少年カナダ交流訪問団報告会



7月27日から8月11日の2週間、青少年海外派遣事業（青少年カナダ交流訪問団）に参加した、中学生5人の報告会、「青少年カナダ交流訪問団報告会&国際文化交流パーティー」が10月22日、プラザホテル板倉で行われました。

報告会には、訪問団の保護者など約70人が参加。横田派遣受入交流副部会長の司会進行のもと、訪問団員からは、事前研修から研修日ごとに、特に印象深かったことや失敗談の報告がありました。また、会場の大型スクリーンにはスライド写真も流されました。

その後、訪問団員からは、全体を通しての感想の報告、そして、引率者（北本派遣受入交流部会長）からの言葉では、団員一人一人について、カナダでの活動などの感想の報告がありました。

最後に、訪問団員からは、事前研修でつくり、そしてアボツフォード市へ持っていた「団旗」の披露、そしてお礼の言葉があり、報告会は終了しました。

（青少年カナダ交流訪問団のカナダでの感想などは、青少年カナダ交流訪問団報告書に掲載されていますので、そちらをご覧ください）



## 国際文化交流パーティー

深川国際交流協会 国際理解部会 宮川 央子

10月22日（土）に、昨年度までは拓大留学生に日本文化を体験していただき交流を図ることを大きな目的として開催してきた「国際文化交流パーティー」を開催いたしました。本年度はその目的に加えて、深川国際交流協会を広く市民の皆さんにPRすることも大きな目的として計画いたしました。

どの様に事業展開すると多くの参加者を得ることが出来るかと、部会の度ごとに協議を重ねました。そんな中で今年は小中学生の民謡ユニット「み・せ・た」を出演者としてパーティーを賑やかに元気づけ開催することとしました。

締切日までに期待数の参加者を得ることが出来ず、部員や理事が「ロコミ」で参加者を募り約70名の参加者を得ることが出来ました。

当日、カナダ交流訪問団報告会が終了し、いよいよ「み・せ・た」の演奏が始まりました。アメリカのカネギーホールやロシアのエルミタージュ美術館での演奏を経験しているだけに、素晴らしい迫力とパフォーマンスで参加者を魅了していました。特に交流団の中学生が同年代の演奏者に大きな関心を寄せていたのが印象的でした。



また拓大留学生も演奏の途中で、和装をして全員で「北海盆踊り」を踊る体験がありこれもまた好評でした。昼食も品数が多く豪華に準備され、初めて参加した市民の皆さんからは「ぜひ来年も参加したい」との声が寄せられました。



今後も深川交流協会の活動の様子を市民の皆さんに理解していただくためにこの事業を展開することの重要性を感じて終了いたしました。



↑ 深川国際交流協会「カナダ訪問」



↑ 青少年カナダ交流訪問団報告会



↑ 国際文化交流パーティー



↑ 国際文化交流パーティー



**深川国際交流協会会員募集しています！**



【問合せ先】 深川国際交流協会事務局（深川市企画課） ☎26-2215

<http://www.fukakoku.sakura.ne.jp/>

世界に発信する深川地球市民



【広報誌発行責任者】 岡 隆史（総務部会部会長）

【広報誌編集担当】 深川国際交流協会 総務部会